

「青少年教育指導者講習会」

～人間関係づくり(PA)をベースとした体験活動の在り方～

1 趣 旨

青少年教育施設の職員や教育関係者が集まり、各施設で実施しているプログラムを通して人間関係づくりに関する研修を行い、指導に関するノウハウ等の情報を交換し、指導技術を高めると共に、研修の成果を山陰・山陽地方の学校や団体に広く普及することを目的とする。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成28年10月27日(木)～28日(金)
- (2) 場 所 島根県立少年自然の家
- (3) 協 力 島根大学教育学部附属教育支援センター、鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、島根県立青少年の家(サン・レイク)、島根県立少年自然の家、広島県立福山少年自然の家、島根県教育庁社会教育課、鳥取県教育委員会社会教育課
- (4) 対 象 山陰・山陽地方にある青少年教育施設等で青少年教育に携わっている職員、教育関係者
- (5) 参加者 19名(募集30名)
- (6) 講 師 門田 卓史氏(edu-activators代表取締役 トレーナー)
- (7) 日程・研修内容

10/27 (木)	13:30	14:00	15:00	15:30	～	17:30	18:30	19:00	19:30	20:30	22:00	23:00
	入所・受付	開会行事 オリエンテーション	参観視点の確認	会場移動	[研修①] 人間関係づくりに視点を おいた野外炊飯活動 (指導参観) 協力校：浜田市立松原 小学校5年生	夕食・休憩	野外炊飯 振り返り活動 (参観)	意見交換	入浴・休憩	情報交換会	就寝準備	就寝

10/28 (金)	6:30	7:40	9:00	～	12:00	13:00	14:00	14:30
	起床	身辺整理	朝食	[研修②] 講義・演習 PA理論をベースとした 人間関係づくり	昼食	[まとめ] ・ふりかえり ・質疑、応答	閉会行事	解散

3 事業の内容

(1) 事業の特色

青少年教育施設の職員や教育関係者が集まり、山陰・山陽6施設の特性を生かしたプログラムを実際に体験することを通して、指導に関する手法を学び、情報交換を行う。プロジェクトアドベンチャー(PA)の考え方をベースとした人間関係づくりの普及、発展に取り組んでおられる方を講師に招き、講義や演習を通して、「人間関係づくり」の理論や手法について学ぶ。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

研修①では、「人間関係づくり」の考え方を従来の体験活動プログラムに活かさないかということで、実際に子ども達が野外炊飯活動を行っている場面を参観できるように設定した。今回の野外炊飯活動が子ども達にとってよりよい人間関係づくりのきっかけになっているかをより明確に評価できるように、炊飯活動後の子ども達の振り返りの様子も参観できるようにした。研修②では、研修内容が参加者にとって効果的な内容となるように、講師の方に1日目の様子を見ていただいた上で内容を検討していただいた。また、講義だけでなく、それぞれの施設・学校で活かしてもらえるように実際に演習を行い、「人間関係づくり」のアクティビティのねらいや手法について詳しく学べるようにした。

4 成果と課題

《成果》

- ・今回の会場に当たる島根県立少年自然の家の働きかけにより、浜田市立松原小学校の野外炊飯活動を参観することができた。実際に児童や引率者の活動の場面を見ることで、具体的な言動をもとに「人間関係づくり」に焦点を当てて活動を考えることができ、研修内容をより深めることができた。
- ・山陰地方の県立4施設の他、昨年に引き続き広島県立福山少年自然の家からも参加があり、より多くの施設の取組を聞くことができた。また、大学院生、学校関係者の参加者もあり、「人間関係づくり」に対する様々な立場での考えや課題について情報を交換できたことは、今後、学校や団体にプログラムを普及する上で有意義であった。

《課題》

- ・青少年教育施設関係者以外の参加者は、大学院生と学校関係者各1名の参加にとどまった。多くの学校関係者の参加が得られることで、施設にとってはより正確なニーズの把握、また学校関係者にとってはプログラムのねらいや目的の理解に役立ち、今回のような研修がお互いにとって有意義な機会となるはずである。開催施設地域の学校に電話をするなどして広報活動を行ったが、所属する教育研究部会等に働きかけを行うなど、多くの学校関係者に参加してもらうための工夫が今後も必要である。
- ・施設によっては「この日程では多くの職員の参加は難しい。」との回答があった。各施設とより細かく連絡を取りながら、日程の調整を行う必要がある。



研修① 野外炊飯活動参観



研修② 演習

(担当：企画指導専門職 寺戸 真一)